

令和2年度 第1回未来ビジョン会議 要点記録

- 1 開催日時 令和2年10月19日(月)午後7時から8時30分まで
- 2 開催場所 伊東市役所8階大会議室
- 3 出席者 伊東市未来ビジョン会議委員11人(欠席2人)
市長、中村副市長、教育長、企画部長、理事、事務局(企画課長、企画課課長補佐、企画課主査)
- 4 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 市長挨拶
 - (3) 委員の委嘱
 - (4) 自己紹介
 - (5) 閉会
- 5 会議概要
 - (1) 開会
企画課長から開会

- (2) 市長挨拶

皆さんこんばんは。大変お疲れのところお集まりいただきましてありがとうございます。

本来は5月に第1回目を開催する予定でしたが、ご承知の通り今年度は特別な年になりました。コロナの影響で、今日が初めての開催となりました。まず、未来ビジョン会議のあり方について説明をします。私が市長に就任して4年目になりました。この未来ビジョン会議は、私の公約として若い世代の市民の代表の皆様から新たな視点による意見やアイデアをいただき市政の形成や推進に反映させることを目的に設置しているところでございます。

未来ビジョン会議の最初の年に子育てをテーマとして開催し、ここに成果品がございます。「みらい」という子育て関連の冊子です。ここにお集まりいただいた未来ビジョン会議委員の皆様が、様々な支援制度やシステムがあっても、うまく利用できていないのではないかという考えから、この冊子に情報をまとめ、なおかつスマートフォンによってQRコードを読み取れるように必要な情報をタイムリーに取れるというものを、この未来ビジョン会議での提案によって作成いたしました。子育て支援の他にも文化政策や伊東市総合計画についてご意見をいただきました。伊東市総合計画は現在策定中でして、今後10年間の未来をテーマに意見交換を行っていただきました。

今年度は、コロナの拡大によって全世界で今なお甚大な被害を受けております。これまで当たり前だったものが淘汰されるなど大きな時代の転換期が到来しております。この伊東市におきましても例外ではございません。未来ビジョン会議において新たな価値観による新しい伊東スタイルというものを皆様と共に知恵を出し合い、皆が安心して暮らせる伊東の未来に向けて考えてまいりたいと思っておりますので、皆様には忌憚のないご意見を願います。どうぞ今年度よろしく願いいたします。

- (3) 委員の委嘱
小野市長より委員に対し委嘱状交付
※委員の任期は、令和3年3月31日まで
- (4) 自己紹介アルファベット
当局・事務局から自己紹介

【市長】

それでは、座長として会議運営をさせていただきます。ご協力をお願いします。

最初の会議ですので、まず自己紹介と日ごろ生活をする中などで伊東市のまちづくりについて感じている課題や期待していることなど自由にご意見をいただきたいと思いません。緊張されている方もいらっしゃると思いますが、この未来ビジョン会議は私と皆様とがざくばらんに意見交換をする場にしたいと考えておりますので遠慮なさらずに率直な意見ををお願いします。

トップバッターは、A委員をお願いします。その後、A委員から時計回りでお願いします。一人、持ち時間は5分以内でお願いします。

【A委員】

現在、長男と次女が南中学校に通っておりまして、私はそこでPTAの母親代表を務めています。未来ビジョン会議は初めてですので何をしてもいいかわかりませんが、今年度は大変重要な年だと感じております。皆様にご指導いただきながら、短い期間かもしれませんがよろしくをお願いします。先日、娘が市長と漫画甲子園でお会いする機会がありました。ありがとうございました。

【B委員】

この4月に浜松から異動してきてまして、伊東商業高校で教員をしております。出身が富士でして、伊東に来たのは初めてです。まだまだ慣れていないことが多いのが現状です。課題についてですが、高校生を指導する中で感じているのは、私は野球部の顧問をしていまして、中学生が伊東市外に出してしまうというのが課題であると感じています。伊東商業も現在3クラスで、私は1年部の担任をしており、定員割れをしているので、1クラス37～38人です。令和5年度には伊東高校と統合するので、人数的にかなり少なくなっていくのが現状なのかなと思います。このようなところをなんとかしていくのが大事なのかなと思っています。伊東市のことをまだまだ知らないことばかりなので、私自身何ができるか全然わかりませんが、この会議を通じて様々なことを知りながら、少しでも貢献できたらと思っています。これからよろしくをお願いします。

【市長】

ありがとうございます。伊東市の出生数が、私が市長に就任する前は約320人だったのですが、今は約270人まで減少しています。このようなこともありまして、未来ビジョン会議で皆様に様々なご意見をいただきたいと思っております。

また、伊東市の高校三校が合併します。今後、情報共有は大変重要になってまいりますし、何よりも保護者や当事者である生徒の環境を整えていくのが大事であると思っております。是非、この会議の中でも色々と発表していただければと思いますのでよろしく申し上げます。

【C委員】

東海自動車で勤務しております。昨年に続いて今回も参加させていただきます。私も高校まで伊東でずっと過ごしてきました、やはり「田舎だからいやだ、都会に行きたい」というような形で千葉の大学に行きました。こちらに帰ってくるという選択肢がなくて、都内で就職をして5年間向こうで一生懸命仕事をしてまいりました。その中でやはり自分が育った田舎で暮らしたいという思いが強くなりまして、伊東で就職活動をしましたところ、東海自動車に就職することができました。やはり私のように帰ってきたいという方々がもしかしたらいるのかなと思うのですが、伊東市内でその就職先の受け皿の選択肢が少ないというのが現状だと思います。

伊東市が持続可能な都市であり続けるために、2つ必要だと思います。1つは、住民を増やす。数は力ですので、もう1つは、観光客を増やす。この両輪がうまく稼働していけば、伊東市は発展するのではないかと個人的に思っております。

私も6歳と2歳の子供がいます、2人とも元気に保育園に通っております。保育料の無償化であったりと、経済的に本当に助かっています。伊東は温泉もあれば食べ物も美味しくて、今コロナ禍で、都内の企業の多くはリモートで仕事をしていて、会社に行かなくても仕事ができるのではないかなという世の中に変わりつつあるのかなと、その中で若者を中心に移住をしたいというような声もインターネットで調べたらありました。後は交通の便ですね。伊東線は少ないですけど、都内まで週に1回程度行くには十分かなと思います。やはりそういう方々を伊東にどうやって取り込んでいくのかというのが鍵だと思います。情報発信を的確に皆さんの心に響くように実施するのが一番大事だと思います。ここで何か私もひとつづらいい案が出せればと思いますので、よろしく申し上げます。

【市長】

ありがとうございました。現在、介護や医療等の専門資格を持った方がなかなか集まらない状況がありまして、今年度の10月から新政策として「はじめよう伊東応援事業」を始めました。専門の医療・介護・保育等の資格を持っている方に、援助する制度です。例えば、奨学金を受けて学校を卒業した方に上限月2万円を10年間給付します。賃貸でお住まいの方には、毎月2万5,000円を5年間、引っ越し費用も30万円給付します。お子様がいらっしゃる方は、お子様1人につき月額3万円を最大5年間給付します。相当手厚い制度を始めました。実際はこれからですが、従来行っている移住政策でナビゲート事業がございまして、伊東市内を案内する事業ですが、その事業と

合わせて、この手厚い補助を行いますので、なんとか子育て世代等を増やしていきたいと考えております。

私は市長公約として、5歳児の保育料完全無償化、高校生までの医療費の助成拡充を掲げておりました、実施いたしました。そういった意味では、だいぶ手厚くなったと思っておりますが、これに留まることなく、今後もしっかり子育て施策を充実していきたいと考えております。

リモートにつきまして、先日、富戸でサテライトオフィスのようなものを設置するという方がお見えになりました。その会社は、300人ほどがワンフロアにいたようですが、コロナになって以来は、週に1回出勤するというので、すでに成り立っているようでした。もの作りは難しいと思いますが、机の上で仕事をする仕事は自宅でもできる時代になったと再認識しましたので、これから時代に合ったものを、まさに皆様の世代からいろいろと参考になるご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

【D委員】

こんばんは。私は、伊東市バレーボール協会の役員をやっております。バレーボールに携わっているものですので、体育館を使う反面、グラウンドやフィールドワークを行うスポーツは疎かたりします。

僕自身が、伊東で生まれ育って、2年間ほど東京に出た時期がありますけど、ずっと伊東にいます。良いことも悪いこともありまして、伊東で嫁も見つけましたし、子ども生まれました。上の子は大学に通っております。そんな中、伊東で商売をやっておりますので、様々な角度から皆さんとお話ができればと思っております。

スポーツをやる人間にとって、コロナの時代は非常にやりにくいです。ただやりたい人もたくさんいますし、子ども達もクラブチームに所属していれば練習や対外試合の仕方も色々変わってきていると思います。そんな中で工夫をしながら運営をする方も知恵を絞って、クラスターなどが起きないように十分注意しながらやっております。

他の委員さんからもありましたけど、目指すところは人口増加です。また外から人が入ってくるというところを考えた時に、スポーツで何ができるかと言ったら、合宿の誘致ではないかと思ひます。私自身、尽力できればいいなと考えております。

観光とは違う次元の話になりますので、また皆さんのいろんな意見を聞きたいです。どうぞよろしくお願ひいたします。

【市長】

ありがとうございます。あまり具体的ではありませんが、合宿の話が出ましたので、現状を紹介します。今年度末で川奈小学校が閉校になります。地域の方のご意見を最優先にしながら、活用していくのですが、合宿の場所として空き小学校を使いたいところがすでに名乗り出ています。今後どうなるかまだ分かりませんが、川奈小学校ですと海にも近いですし、長所を活かして取り組んでいくためにも、いろんな民間の方のお力を借りていきたいと思ひます。

それから体育館も手狭といひますか、アリーナのような形のものがほしいという声も届いております。当然検討しておりますけども、場所や金額の面で止まってしまひます。市民グラウンドは、これから人工芝を敷いてサッカー競技や少年野球のキャパシテ

イであります、大会の誘致はしていきたいと思っておりますので、変えていくんだという気持ちで、いろいろとご意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【E委員】

私は、伊豆急行に入社して6年目になります。駅で1年、車掌を1年、企画部総括課で4年目を迎えました。駅員と車掌については何となく想像が出来ると思うので、総括課の仕事を簡潔に申し上げます。伊豆急行はJRと相互直通運転をしまして、その運賃の収入の確認や旅行会社も多く弊社に広告を出しておりますので、収入の確認やお客様のお問い合わせや要望、苦情等を会社に反映させたり、お客様からの直接のご意見の返信などを行っています。

2019年7月に伊豆高原駅に直結したやまもプラザでバケーションオフィス伊豆高原駅の開業と昨年、皆様もご経験されたと思うのですが消費税改定ですね、後は遅ればせながら伊豆急行もようやくクレジットカードが使えるようになりまして、クレジットカードの導入に関わらせていただきました。仕事の面ではお客様からご意見をいただいたりする機会が多々ありますので、少しでもこの会議に反映できれば良いなと思っております。

個人的な自己紹介は、実は伊東市出身ではなく、横浜市に生まれて、横須賀市で育ち、横須賀市から東京の大学まで遠距離通学していました。その後縁あって伊豆急ホールディングスに就職して、伊豆急行に出向しています。

実は横須賀市も、若者の流出が囁かれておりまして、伊東市も同じような課題があるということで、当事者意識を持って臨める思いますので、非常にワクワクしているところです。若輩者であります、皆様のご意見や考え方などを多く吸収して少しでも力になれるよう頑張りたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【市長】

外からの目をここで伝えていただければと思います。横須賀ということで伊東と横須賀の繋がりはご存知ですか。伊東で一番の観光イベントになります、按針祭は知っていますか。三浦按針、本名はウィリアム・アダムスと言いますが、イギリスで生まれ、オランダの船で日本に漂着し、徳川家康に旗本に取り上げられたり、洋式帆船を日本で初めて伊東で作っておりまして、三浦按針を通した繋がりがあります。

伊豆急行さんには、ワーケーション施設として伊豆高原駅にそのゾーンを作っていただきました。Suicaも随分早くから取り入れておりまして、クレジットカードは初めてかもしれませんが、私のイメージはすごく頑張っている会社であると思っております。是非この場で色々と発言していただいたり、他の委員のご意見を仕事にも繋げていただければ、きっとご自身のお仕事にも役に立つと思っております。是非そんな場にいただければと思います。

【F委員】

私は、2年目になります。まず、R-Shipってどんな団体なのかということ去年に続いて説明させていただきます。去年よりやっていることがだいぶ増えました。街の皆様にもご協力いただけて色んなことをやらせていただいております。昨日も半年ぶりにI TO マルシェを復活させることができました、会場に600人の子供が集まりました。ご家族を合わせると何千人という人を集めることができました、コロナという状況がある中で、どこまでハッピーなのかはわからないんですが、個人的にはたくさん笑顔に包まれて良かったなと思っております。マルシェだけではなく、湯の花通りさんやキネマ通りさん、商店街連盟さんと協力して行っています。先日も湯の花通りで原宿化プロジェクトというものをやりまして、おかげさまで大盛況という言葉をお聞き、楽しくやっております。

また、先ほど市長からお話がありました移住ナビゲート事業もやっております。コロナの状況があり、なかなか関東の方達がこっちに来にくい状況があったので、実はこれはきちんと報告書には挙げられていないんですが、東京で移住相談を受けています。本当に移住したいお気持ちがあればこちらの方でもご案内しますということを行っています。今後も伊東を盛り上げるための地域活性化事業ですので率先して色んなことをやっに行こうと思っている団体です。

また去年は言えなかったのですが、一応目標はありまして、あえて言わせていただくと伊東で一番良い就職先になりたいと思っています。今年度の6月に伊東出身の方を始めて雇用しまして、正社員として働いてもらっています。NPO法人ではあるのですが日本では社会的地位は若干低いですが、海外だとNPO法人は立派な企業であり、就職先でもありますので、NPO法人の社会的地位が上がっていくというのも自分では目標です。そのような団体だにご理解していただけると幸いです。

今の伊東のことをお話させていただくと、未来ビジョン会議という場ですので、ニュースタンダードという言葉が、今ベーシックになってきている中で、伊東ならではの課題だけじゃないことがたくさんあると思います。けどその中で、時代を捉えながら、今を受け止めながら、未来ビジョンですから、今日とか明日じゃなくて、もうちょっと先のことを考えながら、恐れないメンタルと新しいものを取り込むメンタル、明日明後日の想像できることは多分周りもやっていると思うので、周りと同じことをやっいてもその課題についていけなくて、新しい課題にまた追い越されるだけだと思うので、そのような捉え方で進めていければ良いのではないかなと思っています。私も伊東出身ではないので、小生意気な意見に聞こえてしまうかもしれないのですが、あえてこういうところでそのようなことを言えれば良いなと思って、今期も参加させていただきますので、よろしくお願いします。

【市長】

お集まりの皆様もR-Shipという活字を新聞上でよく見ると思いますが、本当に様々な事業をやっただいております。私には考えがつかないようなものばかりでございまして、大変好評を得ております。時折私も参加させていただきますけども、本当に真新しいアイデアがたくさんございます。

新しい生活様式は、これからコロナ禍を踏まえて生活をしていくことになりますので、その中で観光地のあり方、まさにこの未来ビジョン会議でご議論いただきたいと思

います。何の遠慮も入りませんので、是非いろいろとお伝えしていただきたいと思います。

最後に、伊東で1番良い就職先という目標があるということを知りまして、大変心強く思っております。若者がみんなそんな気持ちで伊東を盛り上げてもらえるように、ご指導お願いしたいと思います。

【G委員】

昨年に引き続き今年もよろしくお願いたします。昨年度は障害者支援施設みどりの園で支援員をしておりました。今年度の8月に小室地域包括支援センターに異動しました。これは市の委託事業です。高齢者の介護のご相談や地域の皆様の高齢者の悩みを聞いて介護などに繋げたりする活動をしております。どうしても市とのやり取りや予算がないとか色々としと繋がりがある仕事をしています。

今年度は、子育てなどの地域の子ども達のためにというような感じも見受けられますが、私は真逆なことをしております。伊東は静岡県内でも高齢化率がとても高い市です。そうすると介護の潜在的なニーズがとても多くて、実際、地域の高齢者と関わっていく中で、色々な要望があります。しかしマンパワーが足りない、箱がないことなどの問題が出てきます。後は、高齢者の事故が多い中で、高齢になって足腰が弱っても、車に乗っていらっしゃる方が多いです。公共交通機関がないこと、山道が多い地域ですので、バス通りに行くまでが、歩いて30分以上掛かる高齢者が多いです。このような場面を見ているとやはり助きたい気持ちになりますが、福祉の力だけではどうにもならないことが本当に多くあります。若者に就職して力になってほしいなということは日々感じています。今年度も皆さんの意見を聞いて、私たちの仕事にも役立てたらと思います。よろしくお願いたします

【市長】

本市の高齢化比率は、現在42.3%です。人数は増えていませんが、お子さんが生まれないために比率は増加傾向にあります。このような中で、亡くなる方は、毎年1,000人を超えておりますので、出生数と差し引きすると自然減で約700人以上の人口が毎年減っています。今後も高齢者の支援体制もしっかりやっていくということになります。健康寿命として、健全に働いたり生活をしていくために、先ほども話しがありましたけど、例えば、グランドゴルフなど、簡単にできる又は外に出ようという気持ちになるようなものを取り入れていきまして、自立できる高齢者を増やしたいと思っております。そろそろ団塊の世代が、75歳に到達します。見た目は、とても若々しい元気な方が多いです。その健康を維持していただくようなこととして、例えば子どもと高齢者の方のスキニップの機会を提供し、子どもの優しい心を育むとかお子さんと触れ合うことで高齢者の方の生きがいにもなればと考えております。よろしくお願いたします。

【H委員】

私が何をやっているのか簡単に説明しますと、デザイン事務所を営んでいます。印刷物やホームページなど、広く広告に関わるデザインをしております。所属は、旅館組合が主に観光客の方に伊東の街を楽しんでもらいたいということで、まち歩きマップを発

行しています。職業柄、お手伝いができるということでアドバイザーとして携わっています。

プライベートは、去年娘が20歳になったので子育てはもう終わったのかなというところですが、今度は両親の介護の問題が出てきております。子育てが終わったと言っても、最近まで仕事と子育てを両立するのに苦労した思い出がたくさんありますし、これから両親の介護をどうしようかという問題も抱えていますので、社会保障の問題についても自分のこととして考えることができると思っています。皆さんと一緒に考えていければいいなと思っています。よろしくお願いします。

【市長】

この街歩きマップは、観光のお客様にとっても有効に使っていただいております。高い評価を得ておりますので今後ともご協力をお願いしたいと思います。

両親の介護は、皆同じ問題を抱えておられて、一人で苦しまないようにということと、在宅で見られる方もいれば、入所や通所など色々パターンがあります。

また皆さんお仕事をお持ちですので、両立することに支障がないよう常々心配をしておりますけども、未来ビジョンは何も子どものことだけではありません。私たちも年を重ねて行けば、当然高齢者にカウントされますので、今からしっかり取り組んでいくことが重要です。是非ご提案いただきたいと思っています。よろしくお願いします。

【I 委員】

気鋭の会について説明します。伊東市内の20代から40代までの経営者もしくはそれに準ずるものが集まり構成しております。会員の自己研鑽や地域貢献を主に活動しています。昨今の新型コロナウイルスの流行にともない活動は大分制限されています。

私の紹介をしますと、私の会社は食品製造をしております。伊東の特産品であるミカンやニューサマーオレンジを加工してジャムやソースなどの製造をしております。製造したものを旅館やホテル、土産物屋にて販売をしております。私どもの会社も観光業にとっても密接に繋がっているところであります。この未来ビジョン会議につきましては、一経済人として意見を述べさせていただきたいと思っています。よろしくお願いします。

【市長】

気鋭の会は年度末に政策提言をいただいております。結束も強いと思いますし、情報交換の場にもなっていると思います。経営者中心ということで、私が一番知りたいのは、実体経済でして、今エールクーポン券が市内で流通しております。これは買い求めいただく方に20%のプレミアムが付いておりますが、何よりも事業者が、大変苦しい状況が続く中で市民が応援してくれているんだから頑張ろうという、マインドの維持にも繋がっていると思います。また、競輪である程度の成果が出ておられて収益が増えそうです。この収益については今まで、教育に充当しております。エアコンの設置、今年大活躍したと思いますが、また電子黒板も設置し授業で使っているとの報告を受けております。今年度の収益については、エールクーポンの第二弾に使用したと考えておりますが、おそらく年明けにも苦しい時期が来るかと思っていますので、そこに向けて、政策を考えていきたいと思っています。是非、生の若手経営者の声をいろいろと集めて来てい

ただいて、ここにいらっしゃる皆さんと共有していただければ大変ありがたく思いますのでよろしくをお願いします。

【J委員】

今年はバルが中止になりまして、こんな時に開催しないでどうするんだとお叱りをいただいています。予想も付かない状況になりました。本業は郵便業をしておりますが、毎日マリンタウンのポストを確認します。自粛しているのですが、とても寂しい光景でしたが、今少しずつ戻ってきております。休みの日にマリンタウンの入口が渋滞して入れないということもまだありませんので、一日も早くそんな日が戻ってくるといいなと思っています。按針祭もなく寂しかったのですが、お家按針祭を開催して、花火の写真を撮ってSNSにアップしたり、大室山の花火はこのような状況下でないと出来ないと思いますので、新しいことも生まれてきているのかなと思っています。これから取り返していきたいと思います。よろしくをお願いします。

【市長】

今実感されていることが伝わってきました。私は家が宇佐美ですから、毎日マリンタウンを通過しておりますが、自粛期間中は完全休業で駐車場にも入れなかったと思いますが、その期間も郵便の回収に行っていたということですね。郵便物がなかったということだと思いますが、現在少しずつ回復しておりますは、皆さんもご存知かもしれませんが、G o T o トラベルやG o T o イートもこれから拍車が掛かって進んで行くと思いますけども、制度上とても分かり難いものですので、どうしたら伊東で活用できるのかということも皆様のお考えを聞かせていただければと思います。

また、秋花火を開催していきまして、大室山の花火大会を10月3日に開催しました。各方面からある程度の評価をいただいたと思っております、また実施してほしいという声が出始めておりますので、来年は夏の花火も開催したいと思いますが、秋についても色々検討しながら進めていきたいと思っています。お家花火大会は良いアイデアだと思います。各地でなるべく家で見てくれという中で、花火をサプライズで上げていると思いますが、伊東は10月31日にも開催し告知もしています。密にならないように対策を行っております、今後このようなものが求められる新しい時代になったと思います。是非この未来ビジョン会議で、新しい時代に求められるものについて議論し、新年度に向けて、色々市民の皆様、観光客の皆様喜んでもらえるような花火を上げていきたいと思っています。よろしくお願いたします。

【K委員】

子育てネットワークゆうから参加をさせていただきます。宜しく申し上げます。簡単にゆうを説明しますと、子育て中、出産前からお宅に訪問できる、ホームビジターという制度がありまして、県内では函南町と伊東市が活動をしています。子どものことは以前と違って当たり前じゃなくなってきたしまっているかなという部分もあったり、育てるのってこんなに難しかったかなと、自分が育ててもらった頃を振り返っても、こんなに特別なことになってしまったのかなと思うくらい、家庭ごとに困難なことや不安なこともお聞きしながら一緒に子育てを見守らせていただいております。伊東市の保健委員にもとても協力をしてもらっておりまして、専門的なサポートを行っていただいております。

り、とてもありがたく思っております。生まれる人数が少なくなって、育てるのも難しくなって、私自身は今高校2年生と中学校3年生の息子がいるんですけども、子供に学校の様子を聞いても学校に来れない子どもが増えてきているというのが、現実には大きいかと思います。私の子も大きな病気をしてから、登校するのが難しくなって、適応指導教室にお世話になったりしているんですけども、学校も昔はみんな当たり前に通うところだったのかなと思いますが、このコロナ禍も影響すると思うんですが、当たり前じゃなくなってきてしまっているのかなと不安を感じています。ゆうの活動とは別に伊東市の子育て支援課の事業で、パーツアンドピースという相談室を週に1回開催しています。今年はすごく深い悩みが増えて、とても自分たちが十代の頃にこんな大きな悩みを抱えていたのかな、それを誰かに相談できていたのかな、とても心配するような内容が届くようになりました。小さい頃から自分の周りに安心して安全だと思える大人が付いてくれると幼稚園、小学校、中学校、高校と進んでいく中でも、自分が困った時に大人って困ったら助けてくれるのかも、話を聞いてくれるのかもという存在になってくれるのかなと思います。私も微力ですけどもお話を聞かせてもらいながら、一緒に考えさせてもらったり、こんなに辛いことを話してくれてありがとう、また来週も話しさせてねというように答えたりしていますが、多様性がもっと豊かに感じられるような街になってくれるといいなと思いました。

コロナ禍において、お父さんやお母さんの仕事が少なくなって家の中にいることが多くなっているようです。少し言葉が強くなってしまいますけど、お家の中で虐待・不適切な養育が行われてるんじゃないかと報道で言われてきたと思います。私の家に本日届いたばかりなんですけど、ダルクさんという依存症の支援をしている団体が書いた本なんですけども、このタイトルが、「親になるってどういうこと」親になるって誰かに聞いていいんだと思えるような内容が書かれていました。身近なことで誰もが当たり前に行えることも、困っているのも当たり前なんだよっていうことをみんなが気づいてサポーターになっていけるようなお手伝いをさせていただけたらと思います。1年間よろしくお願ひします。

【市長】

今年に入っているいろんな状況があったと思いますけども、生の声を聞かせていただいて大変ありがたく思いました。今後もより良い環境を整えていくためにも、皆さんも市の政策立案の一員だと思っていただきたいと思います。

先ほどA委員のお子さんのお話を聞きましたけど、漫画甲子園というのがありまして、お子さんの作品は二コマのものなんですけど、すごく印象に残っています。漫画のセリフがありまして、皆で記念撮影をしようとしているシチュエーションになります。10人ぐらいの方が描かれておりまして、そこに文字として「撮りますよ」と書いてあります。カメラマンが「撮りますよ」なので普通は「チーズ」的な事なんですけど、二コマ目には、皆さんにも着用しているマスクを取るんですね。「ハイ。マスク」という、その二コマなんですけど、思わず笑ってしまいますし、発想力だと思います。この時代の中でも明るさを持っている、そんなお子さんをお持ちだということです。マスクを取った口元は、日焼けしなかった後が全員付いているというような絵でした。最終選考に二つほど残ったんですけども、審査員はこの年のこの時代の状況の中で、このアイデアは

素晴らしいということになったものと感じました。最後に紹介をさせていただきました。皆様には今後ともよろしくお願ひしたいと思っております。

(5) 閉会

事務局から今後の進め方及びスケジュールについて説明。

以 上